



佐久市立 中佐都小学校

ポッチャから広がる輪

ポッチャを広めよう、ポッチャを通して仲間をふやそう



探究的学習のアウトプット&フィードバック

中佐都小学校では、4年西組のポッチャを広める活動をはじめ、アレルギーフリーのスイーツ、職業体験、オリジナルダンスなど、各クラスでは、生活・総合学習で探究的な学びに取り組んでいます。

5年東組の「うずらを飼おう」は、鳥をふ化させることについての経験をまとめてきた児童の自主学習がきっかけで、うずらを飼うことにしました。生まれてくるうずらを想像しながら小屋を準備したり、うずらの卵を手に入れようと依頼できそうな所に依頼文を書いたりしました。うずらを飼うには餌代等がかかるので、費用負担をお願いしようと「どうしてうずらを飼いたいのか」を校長・教頭先生にプレゼンもしました。様々な課題をみんなで考え、解決していく中で、たくさんの気づきと学びがありました。

5・6年生は、総合学習の取り組みについてアウトプットし、フィードバックする会を9月に開催。学んできたことをブースごとに発表し合うことで、子どもたちの自信が育まれています。

こうした総合的な学習の時間やクラブ活動(クラブ活動マジック、写真、茶道、書道、水墨画、書道パフォーマンス、絵手紙、竹とんぼ、フラワーデザイン、燻製、手芸、ポッチャなど)においては、本物との出会いを大事にするため、地域のスペシャリストを講師として招き、子どもたちが普段できないことを教えていただいています。

こんな活動もしています

児童会が主体となって結成している「なかよし班」は、1年生から6年生までのメンバーで構成された異学年交流班で、遊びを計画・実行し、学年関係なくなかよく遊べるよう活動しています。6年生を中心とした高学年は、低学年の子の様子を見ながら相手意識を育み、低学年は、高学年の姿にあこがれたり、親切さや遊んでもらった経験が自分の学びになっています。

佐久市立 中佐都小学校 HP



福祉教育のポイント

ボランティア活動は、相手のことを思いやる気持ちが大切です。自分の得意なことや好きなことも活動に役立ちます。

各地の図書館のなかには、目が不自由な人への朗読・通訳ボランティアを行っているところもあります。

須坂市立 森上小学校

地域の方とのつながり!

高齢の方々との交流し、地域をもっと元気にしたい!



自分と地域の関わりを考え、行動する

森上小学校の6年生は、高齢の方々への理解を深めようと、サービス付き高齢者向け住宅である「ナーシングホーム須坂」への施設訪問を続けています。家庭科の「あなたは家庭や地域の宝物」のまとめとして計画され、数年間の新型コロナウイルスの影響でなかなか交流ができなかった地域の高齢者の方々とは何かつながりをもちたいという思いから始まった活動です。

交流を通して「私たちと違うところがあるんだな。これからは高齢の方々にもっと気づきができるようになりたいな」という子どもたちの言葉から、地域で取り組む福祉教育の基礎が培われていくことがうかがえます。

なかよしグループによる活動

4月からは「なかよしグループ」という異年齢グループをつくり、朝の児童集会や「もりもりタイム」、人権旬間中の活動などで、「なかよし」をテーマに様々な活動に取り組んでいます。2024年に開校90周年を迎え、5月に行われた90周年記念運動会では、一人ひとりが参加する種目を増やし、なかよしグループごとに紅白に分かれ、異学年での活動を取り入れ、保護者・地域の方々と共に「大玉送り」も行いました。地域の方々や異年齢グループによる交流活動を通して、他者とかかわる時間を大切にしています。

こんな活動もしています

学校では、保護者や地域の皆様による読み聞かせボランティア「森のおはなしやさん」が活動しています。朝の活動で定期的に行われる読み聞かせは子どもたちに好評で、読み聞かせ後は、さわやかな気持ちで1日をスタートすることができます。ボランティアの方々には「子どもたちからエネルギーをもらっています」と話され、互いのつながりを深めています。

須坂市立 森上小学校 HP



福祉教育のポイント

自分と年が離れている高齢の方の話に耳を傾けてみよう。そして、その方の手を見せてもらいながら話をしてみると、これまでのくらしや仕事イメージしやすくなります。特別な技や知恵が聞き出せるかもしれません。